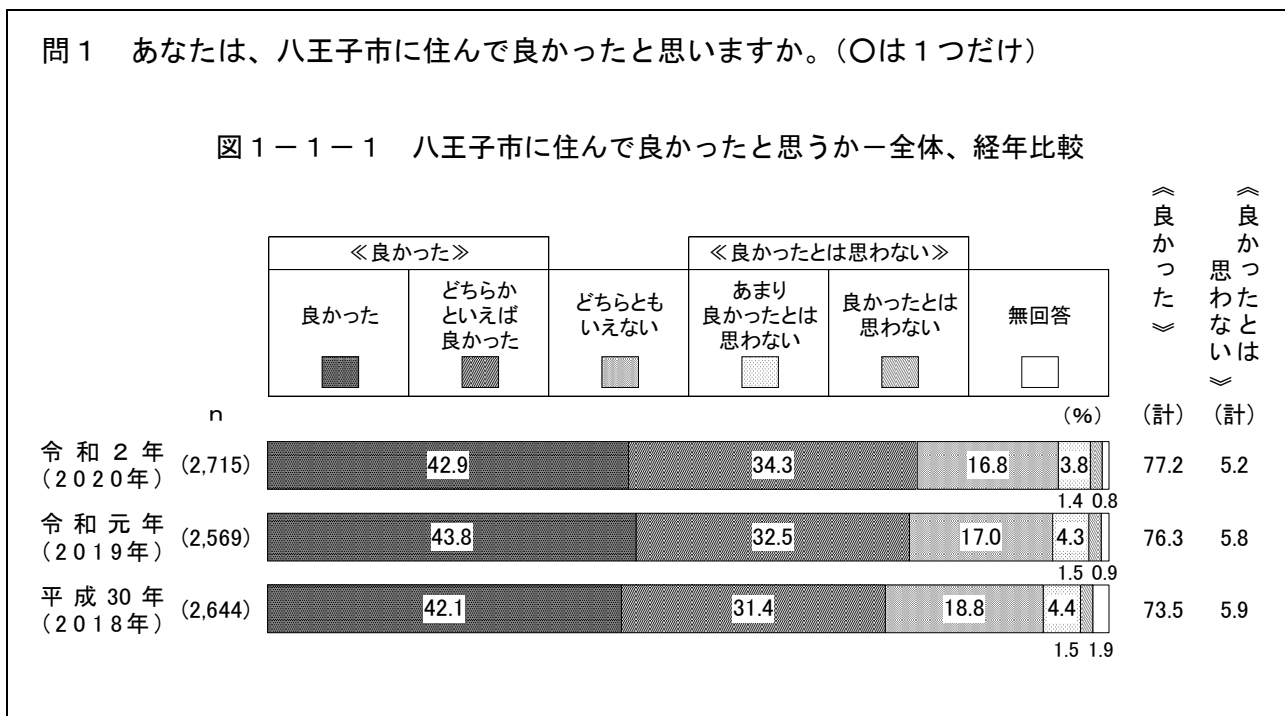


III 調查結果

1. 定住意向

(1) 八王子市に住んで良かったと思うか

◇《良かった》が8割近く

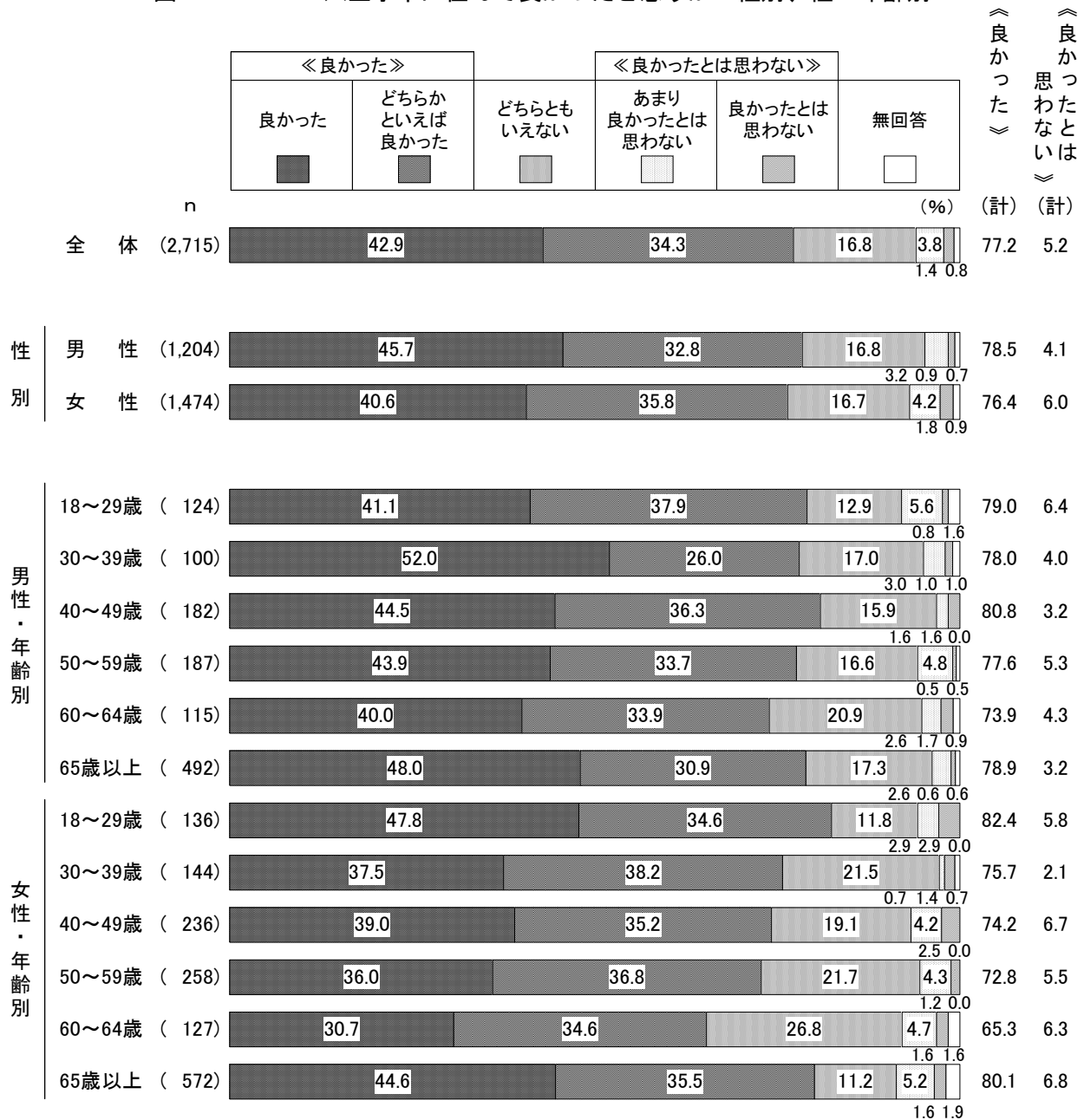


八王子市に住んで良かったと思うか聞いたところ、「良かった」(42.9%)と「どちらかといえば良かった」(34.3%)を合わせた《良かった》(77.2%)は8割近くとなっている。一方、「あまり良かったとは思わない」(3.8%)と「良かったとは思わない」(1.4%)を合わせた《良かったとは思わない》(5.2%)は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」(16.8%)は2割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、令和元年(2019年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-1-1)

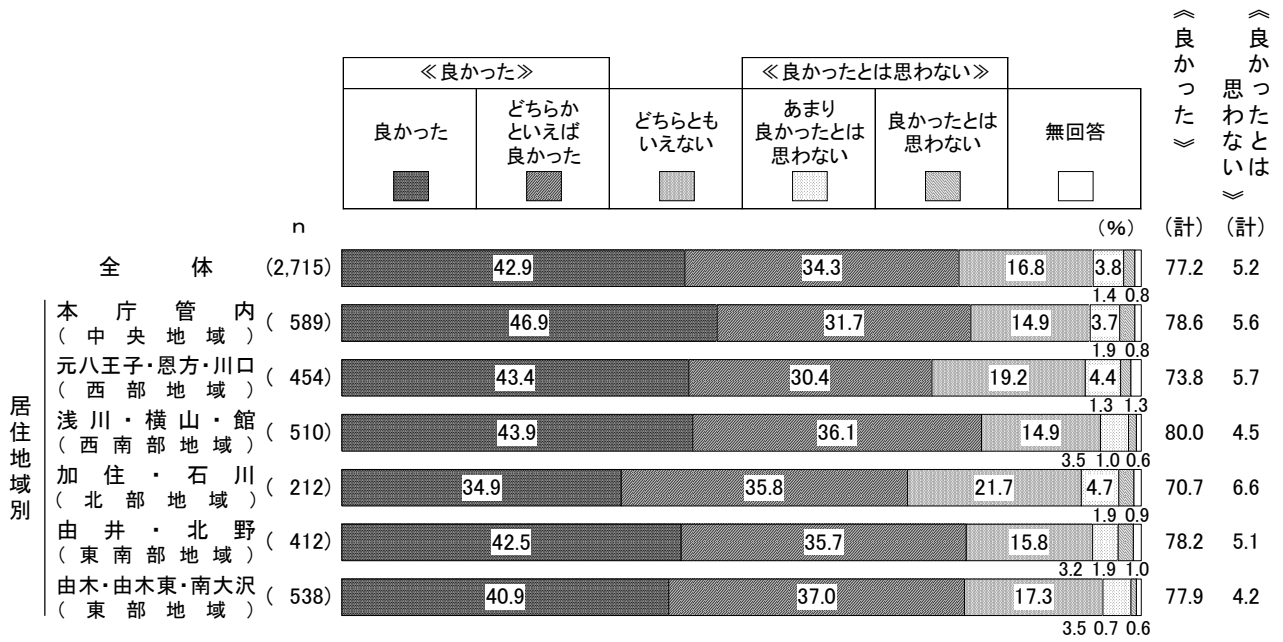
図 1-1-2 八王子市に住んで良かったと思うかー性別、性・年齢別



性別にみると、《良かった》は男性（78.5%）が女性（76.4%）より2.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《良かった》は女性18～29歳（82.4%）、男性40～49歳（80.8%）、女性65歳以上（80.1%）で8割台と多くなっている。（図1-1-2）

図1-1-3 八王子市に住んで良かったと思うか—居住地域別



居住地域別にみると、《良かった》は浅川・横山・館（西南部地域）（80.0%）で8割と多くなっている。（図1-1-3）

(2) まちの魅力をどの程度おすすめしたいか

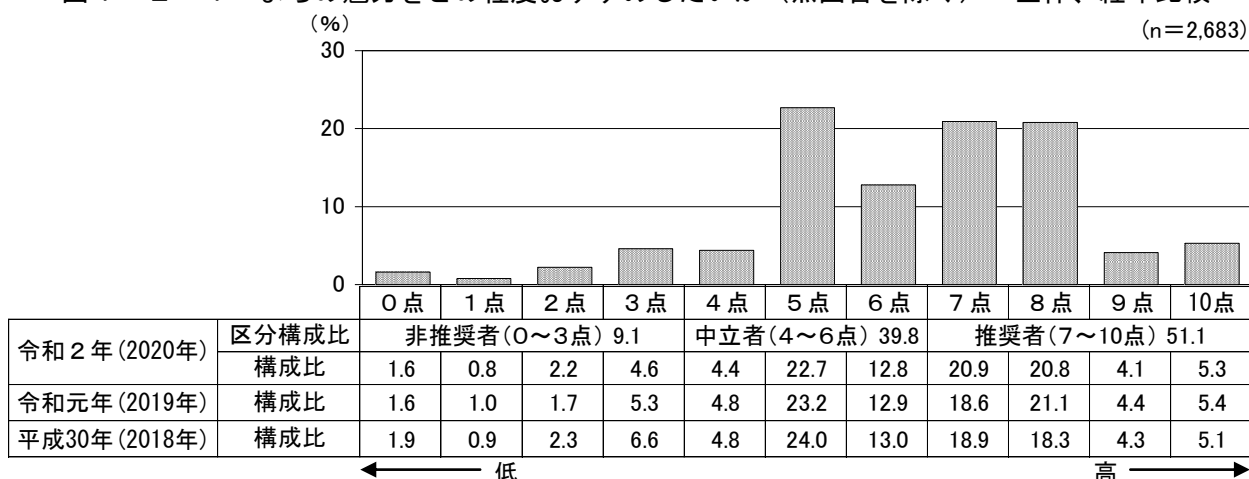
◇自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にすすめたい程度を表す【推奨意欲スコア】は、プラス42.0ポイント

問2 あなたは、自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度おすすめしたいと思いますか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ここでいう「まちの魅力」とは・・・

- 住みやすさ、働きやすさ、子育てしやすさ、交通や買い物の便利さ
- 学習環境、スポーツ環境
- 自然、まちなみ、まちの雰囲気
- お店、グルメ、特産品、農産物
- イベントやお祭り
- 歴史・文化
- 高尾山などの観光スポット
- 人物・企業・団体
- など、どのようなものでも構いません。

図1-2-1 まちの魅力をどの程度おすすめしたいか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 推奨意欲スコアの算出のため、無回答(32人)を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆推奨意欲スコア

推奨者(51.1%) - 非推奨者(9.1%) = 推奨意欲スコア(+42.0ポイント)

(注) 推奨意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・まちに対する「居住」「来訪」等を推奨する気持ちを0~10点の11段階で測定。
- ・「推奨者」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「非推奨者」(0~3点を付けた人)に区分して、「推奨者の割合-非推奨者の割合」を計算。
- ・最低-100ポイント(全員が非推奨者)から最高+100ポイント(全員が推奨者)までで評価。
- ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちの魅力を、家族・友人・知人にどの程度すすめたいかを0~10点の11段階で聞いたところ、7~10点を付けた《推奨者》が51.1%、4~6点を付けた《中立者》が39.8%、0~3点を付けた《非推奨者》が9.1%となっている。この結果を元に《推奨者》の割合から《非推奨者》の割合を引いた【推奨意欲スコア】は+(プラス)42.0ポイントとなる。

前回までの調査と比較すると、「推奨意欲スコア」は令和元年(2019年)(+39.8ポイント)より2.2ポイント増加している。(図1-2-1)

(3) まちのために活動したいと思うか

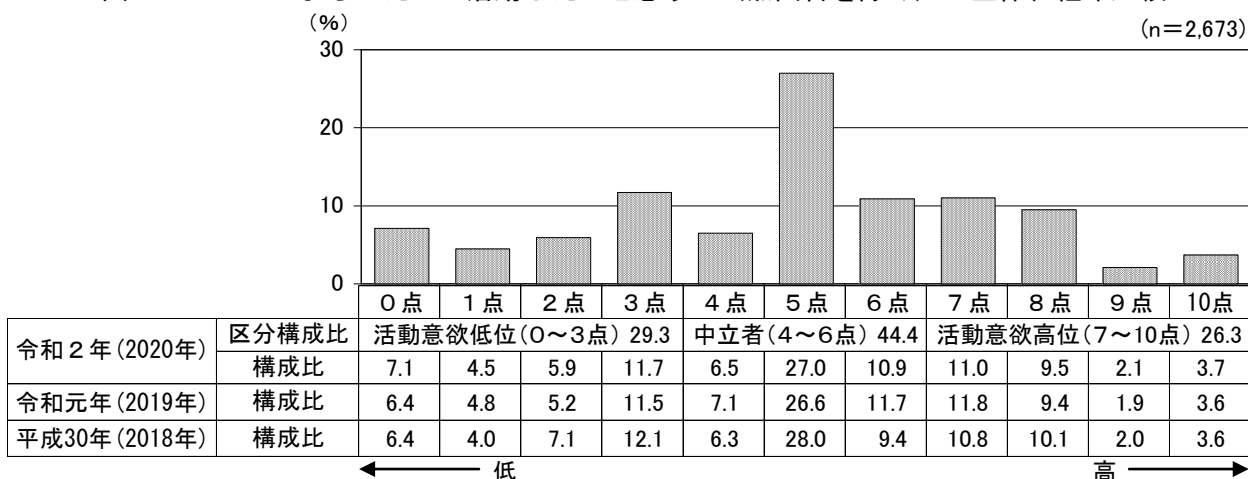
◇自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを表す【活動意欲スコア】は、マイナス3.0ポイント

問3 あなたは、自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちをお持ちですか。最も強い気持ちを10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

※ここでの「活動」とは・・・

- 地域のおもしろい情報や役に立つ情報の発信
 - お祭りや文化活動の担い手としての活動
 - イベントの企画・運営やサポート
 - 公園、道路、河川などの維持活動（清掃や除草など）
 - 町会・自治会、子ども会、PTAなどへの参加
 - ボランティアやNPO活動
 - 市政への意見表明や市の審議会などへの参加
- などを幅広く含みます。身近なもの、個人的なものでも構いません。

図1-3-1 まちのために活動したいと思うか（無回答を除く）－全体、経年比較



(注) 活動意欲スコアの算出のため、無回答（42人）を除いている。

(注) 区分別構成比は、各点の回答者数の合計をnで除して算出しているため、各点の構成比の単純合計とは、必ずしも一致しない。

◆活動意欲スコア

活動意欲高位（26.3%）－活動意欲低位（29.3%）＝活動意欲スコア（－3.0ポイント）

(注) 活動意欲スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS（ネット・プロモーター・スコア）」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・活動への意欲を0～10点の11段階で測定。
- ・「活動意欲高位」（7～10点を付けた人）、「中立者」（4～6点を付けた人）、「活動意欲低位」（0～3点を付けた人）に区分して、「活動意欲高位の割合－活動意欲低位の割合」を計算。
- ・最低－100ポイント（全員が活動意欲低位）から最高＋100ポイント（全員が活動意欲高位）までで評価。
- ・なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くしたり、おもしろくしたりするために活動したいという気持ちの強さを0～10点の11段階で聞いたところ、7～10点を付けた《活動意欲高位》が26.3%、4～6点を付けた《中立者》が44.4%、0～3点を付けた《活動意欲低位》が29.3%となっている。この結果を元に《活動意欲高位》の割合から《活動意欲低位》の割合を引いた【活動意欲スコア】は－（マイナス）3.0ポイントとなる。

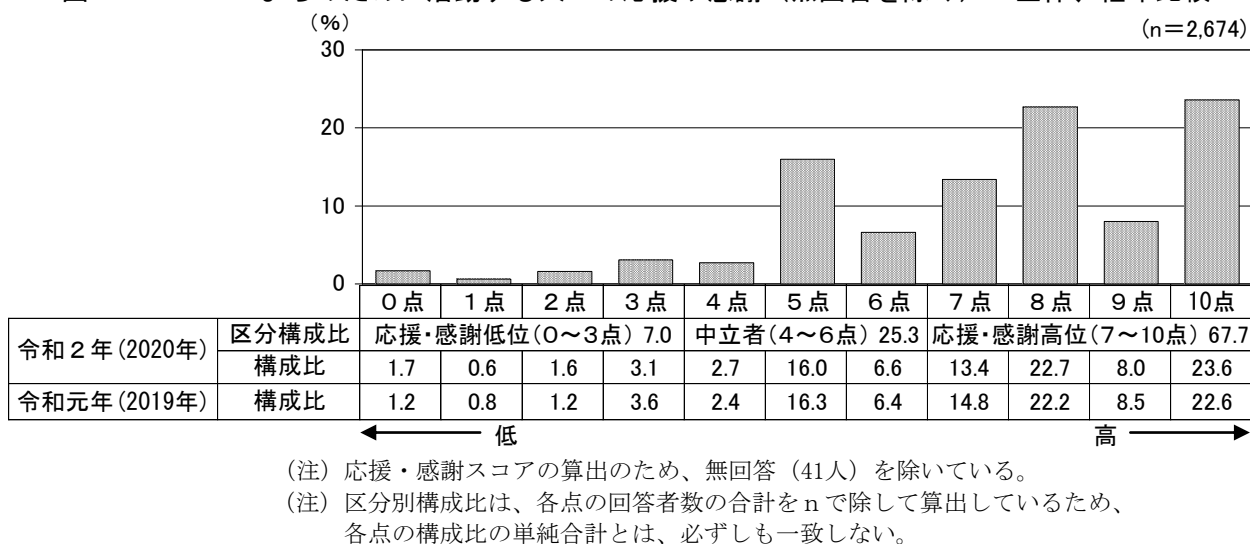
前回までの調査と比較すると、「活動意欲スコア」は令和元年（2019年）（－1.2ポイント）より1.8ポイント減少している。（図1－3－1）

(4) まちのために活動する人への応援や感謝

◇自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを表す【応援・感謝スコア】は、プラス60.7ポイント

問4 あなたは、問3で例示したような活動に参加している人たちに対して、応援したり感謝する気持ちはどのくらいありますか。非常にある場合を10、まったくない場合を0とし、あなたの気持ちを点数で表してください。(該当する数字1つに○)

図1-4-1 まちのために活動する人への応援や感謝（無回答を除く）－全体、経年比較



◆応援・感謝スコア

応援・感謝高位(67.7%) - 応援・感謝低位(7.0%) = 応援・感謝スコア(+60.7ポイント)

(注) 応援・感謝スコアとは、企業・商品などのブランド価値評価に用いられる「NPS(ネット・プロモーター・スコア)」を参考にした指標で、以下のように算出している。

- ・ 応援・感謝の気持ちの強さを0~10点の11段階で測定。
- ・ 「応援・感謝高位」(7~10点を付けた人)、「中立者」(4~6点を付けた人)、「応援・感謝低位」(0~3点を付けた人)に区分して、「応援・感謝高位の割合-応援・感謝低位の割合」を計算。
- ・ 最低-100ポイント(全員が応援・感謝低位)から最高+100ポイント(全員が応援・感謝高位)までで評価。
- ・ なお、この指標は、絶対評価や他自治体との比較に用いるものではなく、経年変化を見るためのものである。

自分のまちを良くする活動に参加している人たちを応援したり、感謝する気持ちの強さを0~10点の11段階で聞いたところ、7~10点を付けた《応援・感謝高位》が67.7%、4~6点を付けた《中立者》が25.3%、0~3点を付けた《応援・感謝低位》が7.0%となっている。この結果を元に《応援・感謝高位》の割合から《応援・感謝低位》の割合を引いた【応援・感謝スコア】は+(プラス)60.7ポイントとなる。

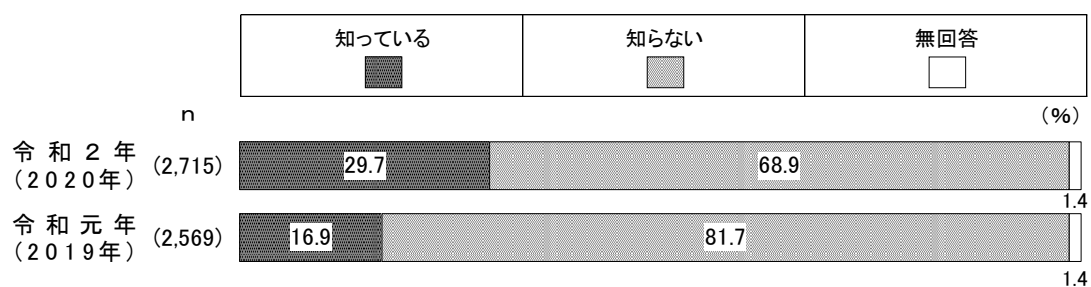
前回の調査と比較すると、「活動意欲スコア」は令和元年(2019年)(61.3ポイント)より0.6ポイント減少している。(図1-4-1)

(5) 市のブランドメッセージの周知度

◇「知らない」が7割近く

問5 あなたは、市のブランドメッセージ「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」を知っていますか。(〇は1つだけ)

図1-5-1 市のブランドメッセージの周知度－全体、経年変化



八王子市のブランドメッセージを知っているか聞いたところ、「知っている」(29.7%)が3割弱、「知らない」(68.9%)は7割近くとなっている。

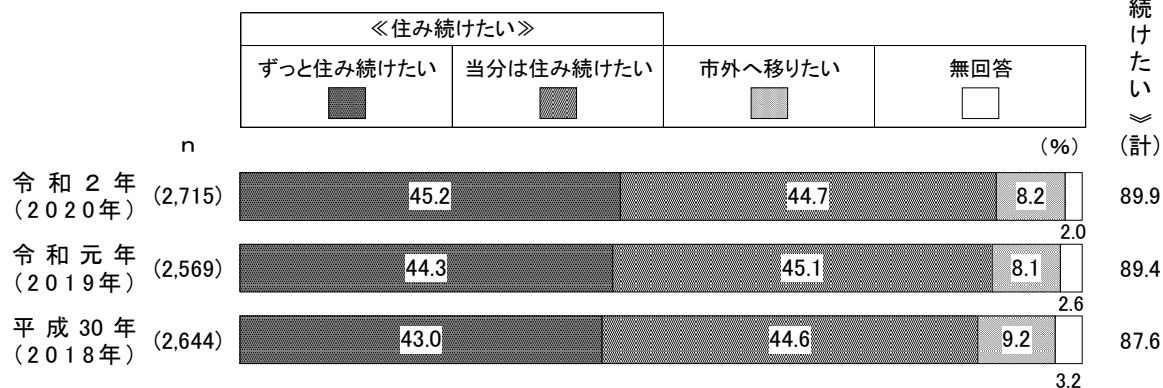
前回の調査と比較すると、「知っている」は令和元年(2019年)(16.9%)より12.8ポイント増加している。(図1-5-1)

(6) 定住意向

◇《住み続けたい》が9割弱

問6 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

図1-6-1 定住意向—全体、経年比較

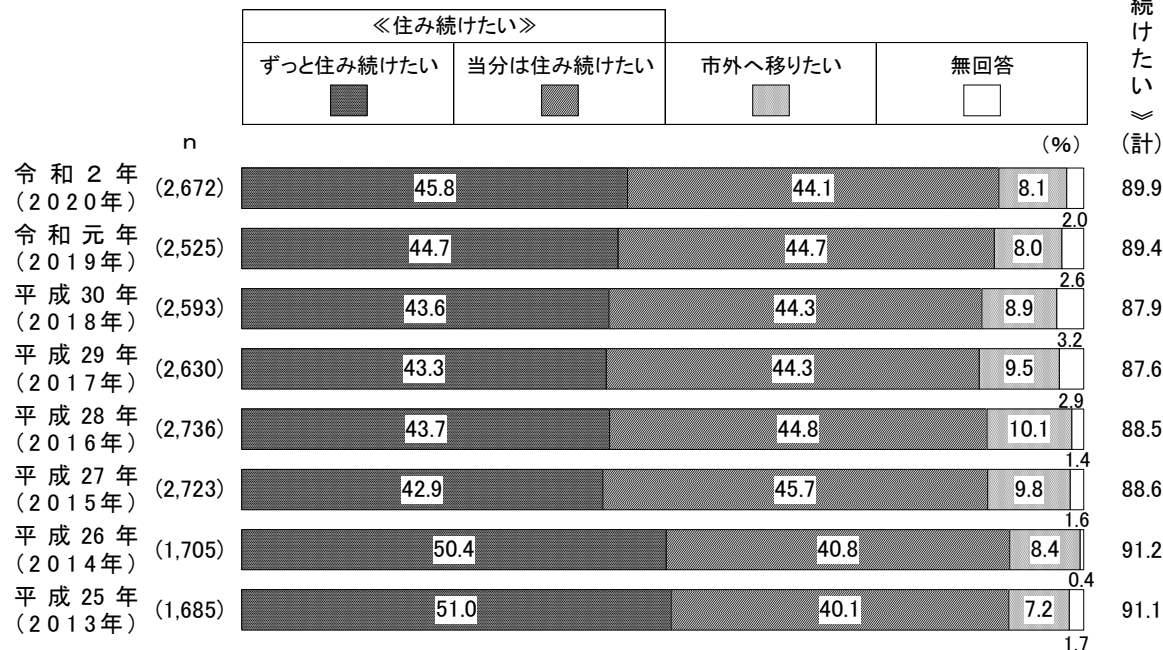


これからも八王子市に住み続けたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(45.2%)と「当分は住み続けたい」(44.7%)を合わせた《住み続けたい》(89.9%)は9割弱となっている。一方、「市外へ移りたい」(8.2%)は1割未満となっている。

前回までの調査と比較すると、令和元年(2019年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-6-1)

図1-6-2 定住意向—経年比較(過去8年)

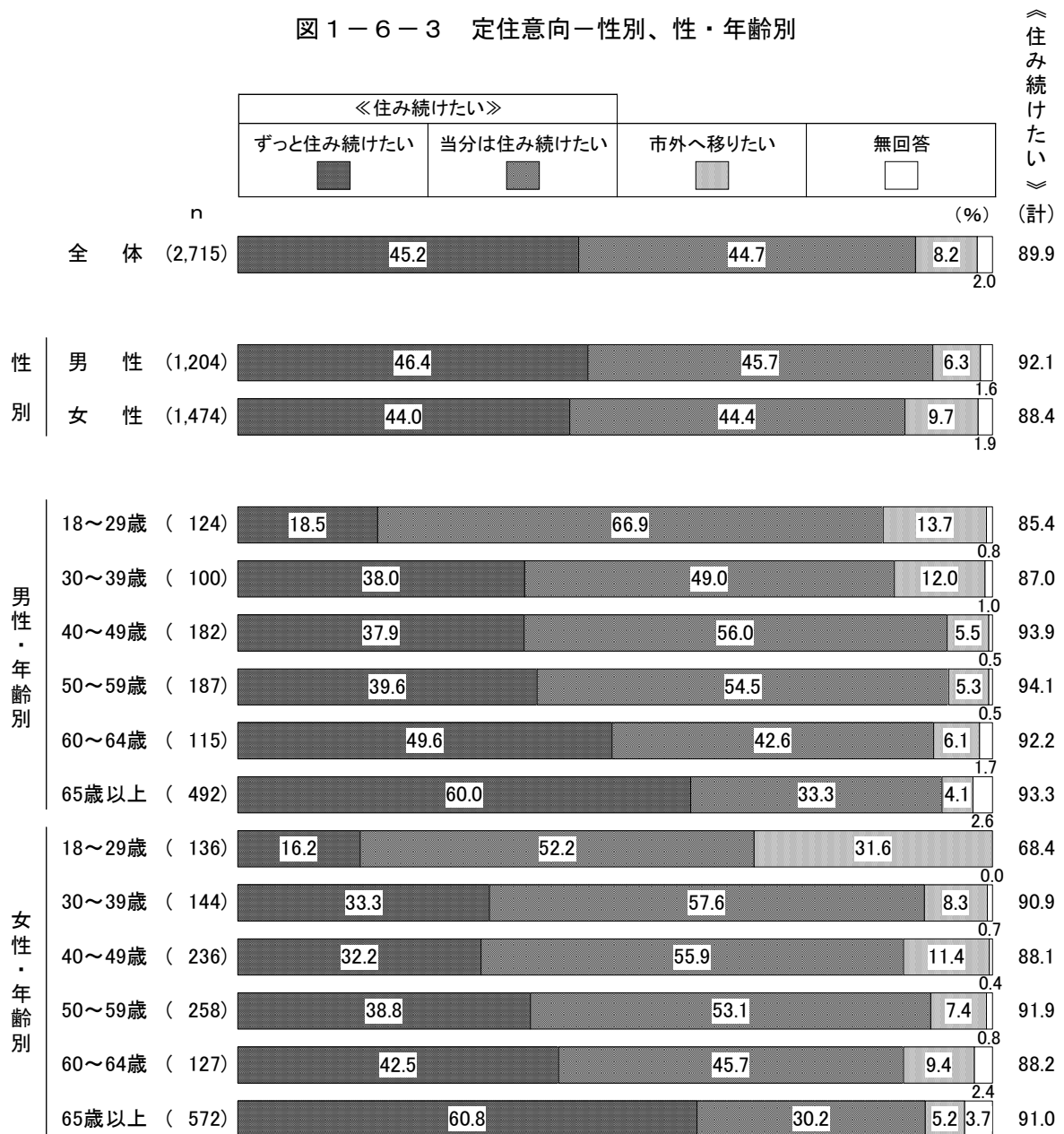


※調査対象者を20歳以上としていた平成27年(2015年)以前の調査結果と比較するため、28年(2016年)～令和2年(2020年)は、18歳及び19歳を除いた数を使用している。

過去8年間の調査結果を比較すると、《住み続けたい》は各年9割近くから9割強の間にあり、特に最近の6年間は88%前後の比率で推移していて、大きな傾向の違いはみられない。

(図1-6-2)

図1-6-3 定住意向—性別、性・年齢別

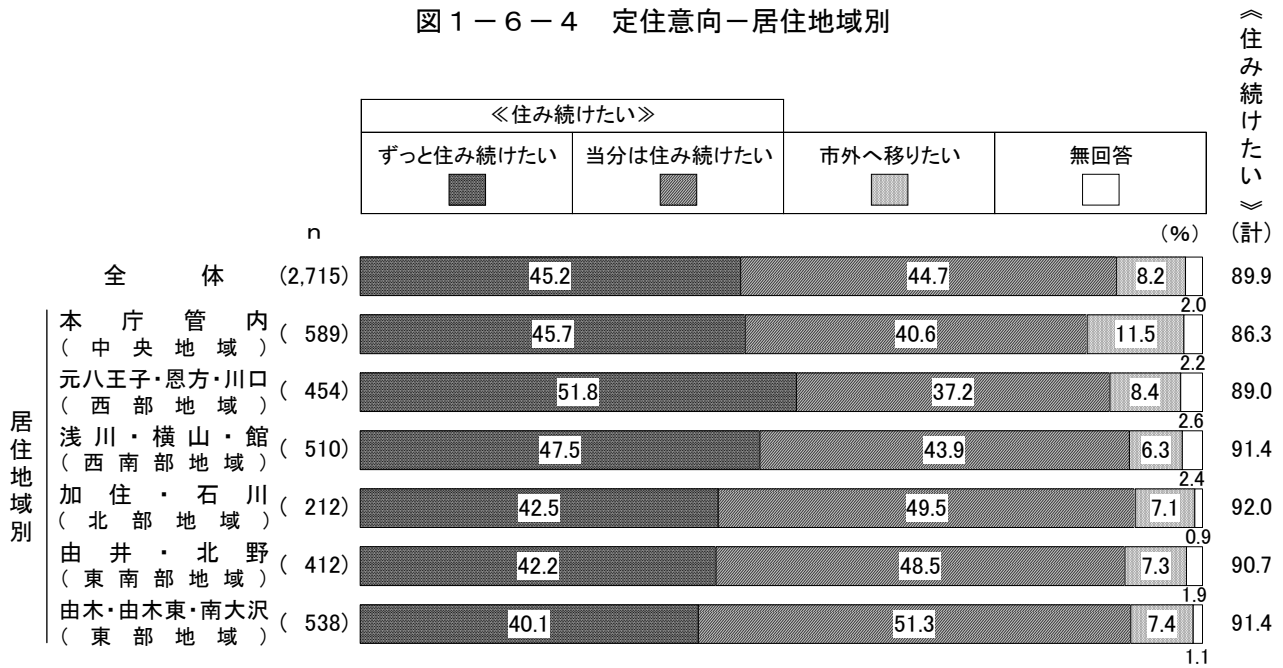


性別にみると、《住み続けたい》は男性（92.1%）が女性（88.4%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住み続けたい」は女性65歳以上（60.8%）と男性65歳以上（60.0%）で6割台と多くなっている。《住み続けたい》は男性50～59歳（94.1%）で9割台半ばと多くなっている。一方、「市外へ移りたい」は女性18～29歳（31.6%）で3割強と多くなっている。

(図1-6-3)

図 1-6-4 定住意向-居住地域別



居住地域別にみると、「ずっと住み続けたい」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（51.8%）で5割強と多くなっている。一方、「市外へ移りたい」は本庁管内（中央地域）（11.5%）で1割強となっている。（図1-6-4）

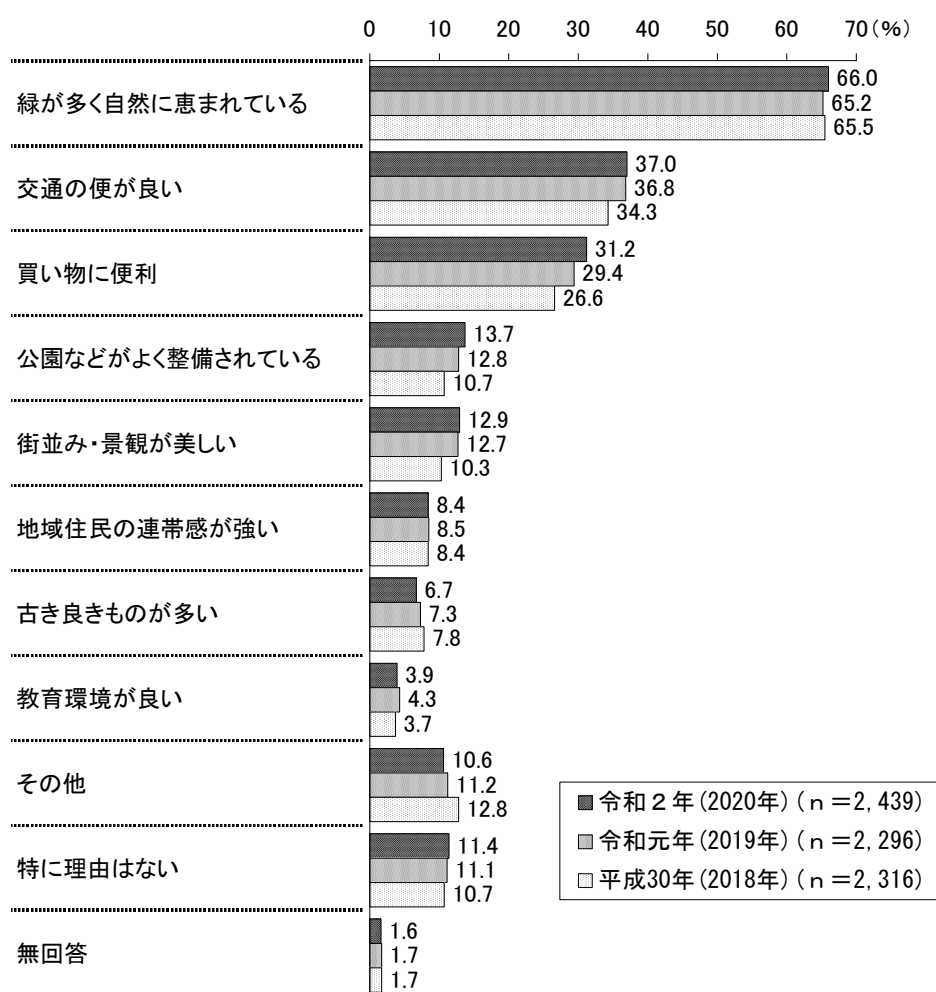
(7) 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が7割近く

(問6で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」とお答えの方へ)

問6-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

図1-7-1 住み続けたい理由—全体、経年比較

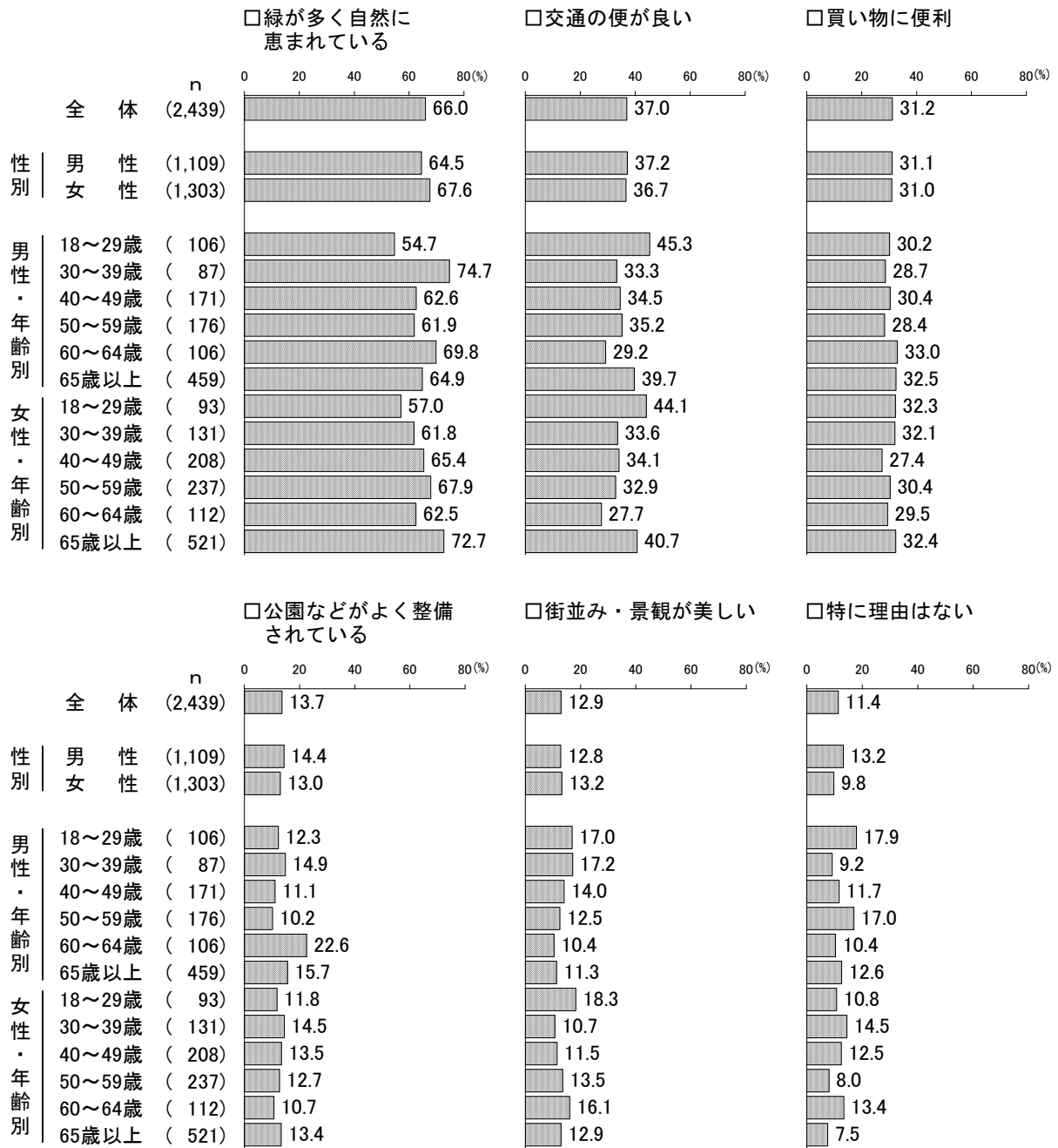


八王子市に「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と回答した2,439人に、その理由を聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」(66.0%)が7割近くで最も多くなっている。次いで「交通の便が良い」(37.0%)、「買い物に便利」(31.2%)、「公園などがよく整備されている」(13.7%)、「街並み・景観が美しい」(12.9%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、令和元年(2019年)と大きな傾向の違いはみられない。

(図1-7-1)

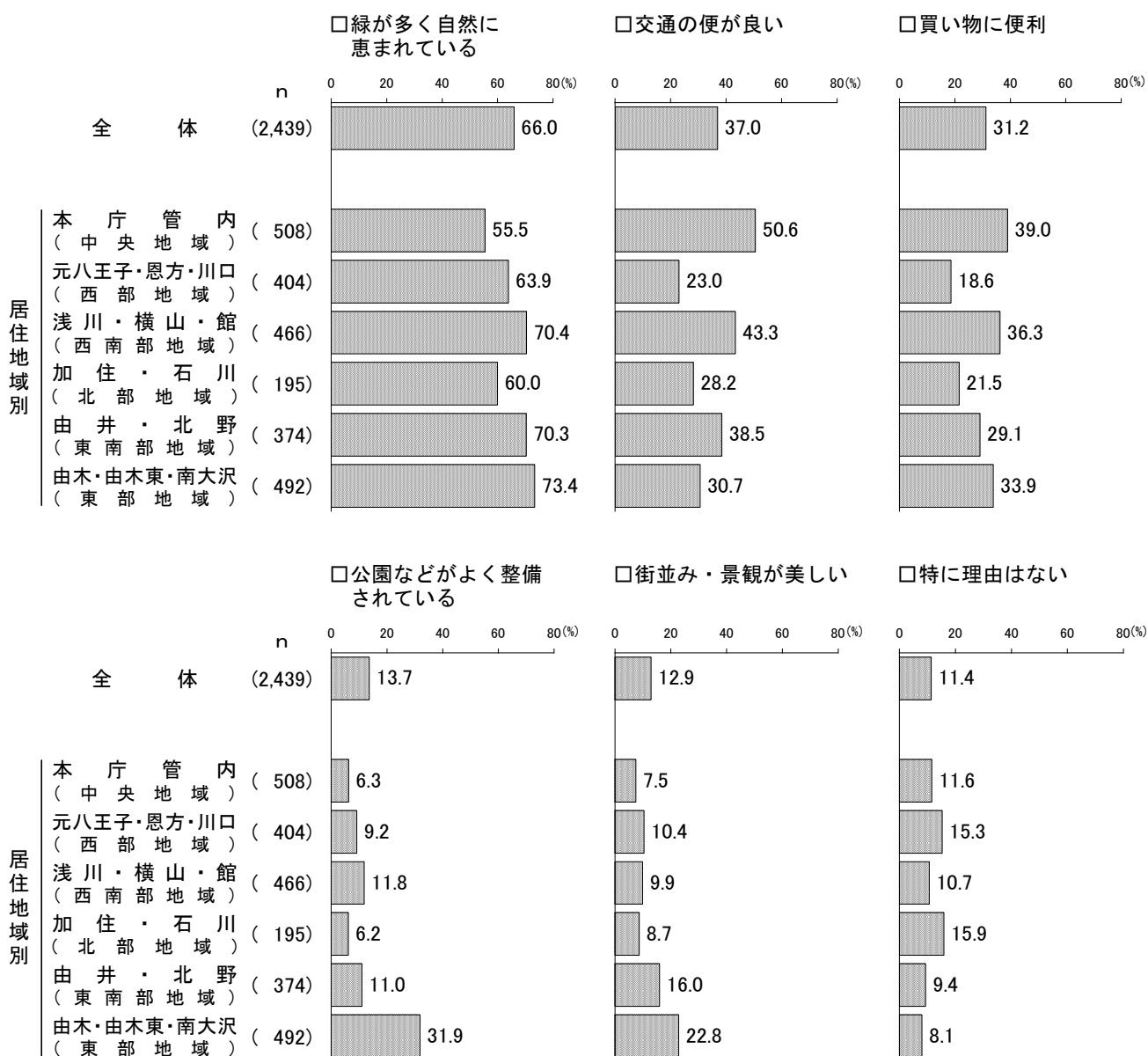
図1-7-2 住み続けたい理由—性別、性・年齢別（上位5位+「特に理由はない」）



性別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は女性（67.6%）が男性（64.5%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男性30～39歳（74.7%）と女性65歳以上（72.7%）で7割台と多くなっている。「交通の便が良い」は男性18～29歳（45.3%）と女性18～29歳（44.1%）で4割台半ばと多くなっている。「公園などがよく整備されている」は男性60～64歳（22.6%）で2割強と多くなっている。（図1-7-2）

図 1-7-3 住み続けたい理由—居住地域別（上位 5 位 + 「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（73.4%）で7割強と多くなっている。「交通の便が良い」は本庁管内（中央地域）（50.6%）で約5割、浅川・横山・館（西南部地域）（43.3%）で4割強と多くなっている。「買い物に便利」は本庁管内（中央地域）（39.0%）で4割弱と多くなっている。（図1-7-3）

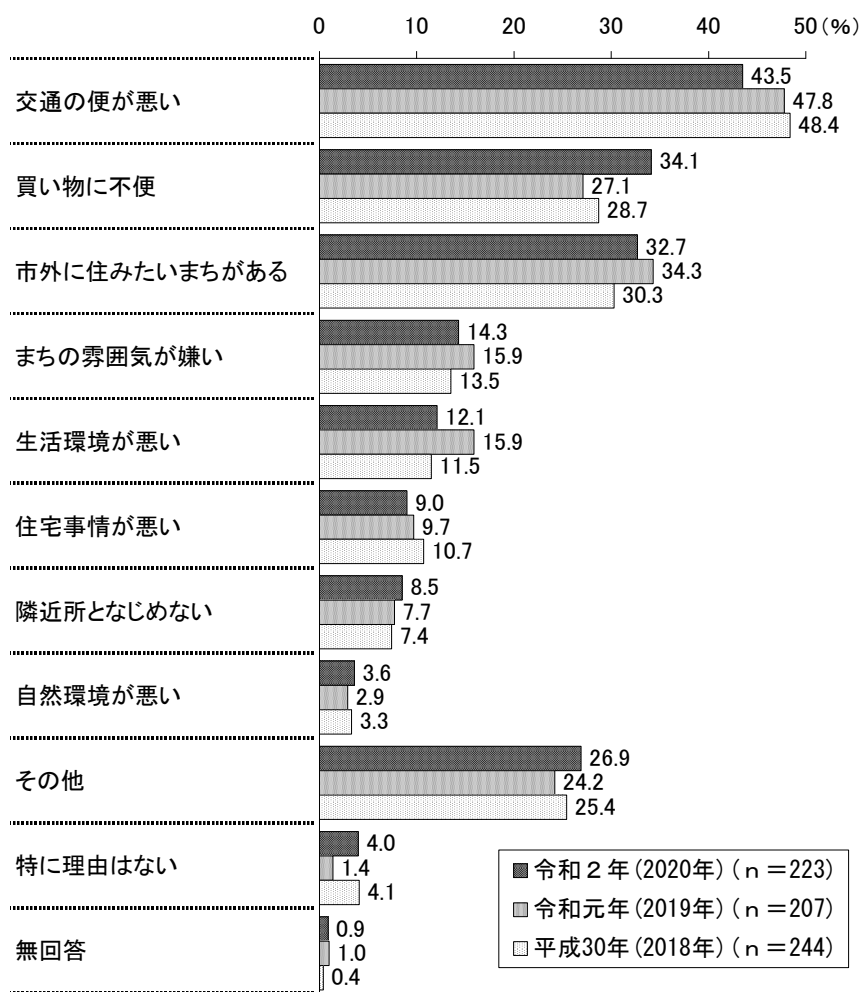
(8) 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が4割強

(問6で「市外へ移りたい」とお答えの方へ)

問6-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図1-8-1 市外へ移りたい理由-全体、経年比較

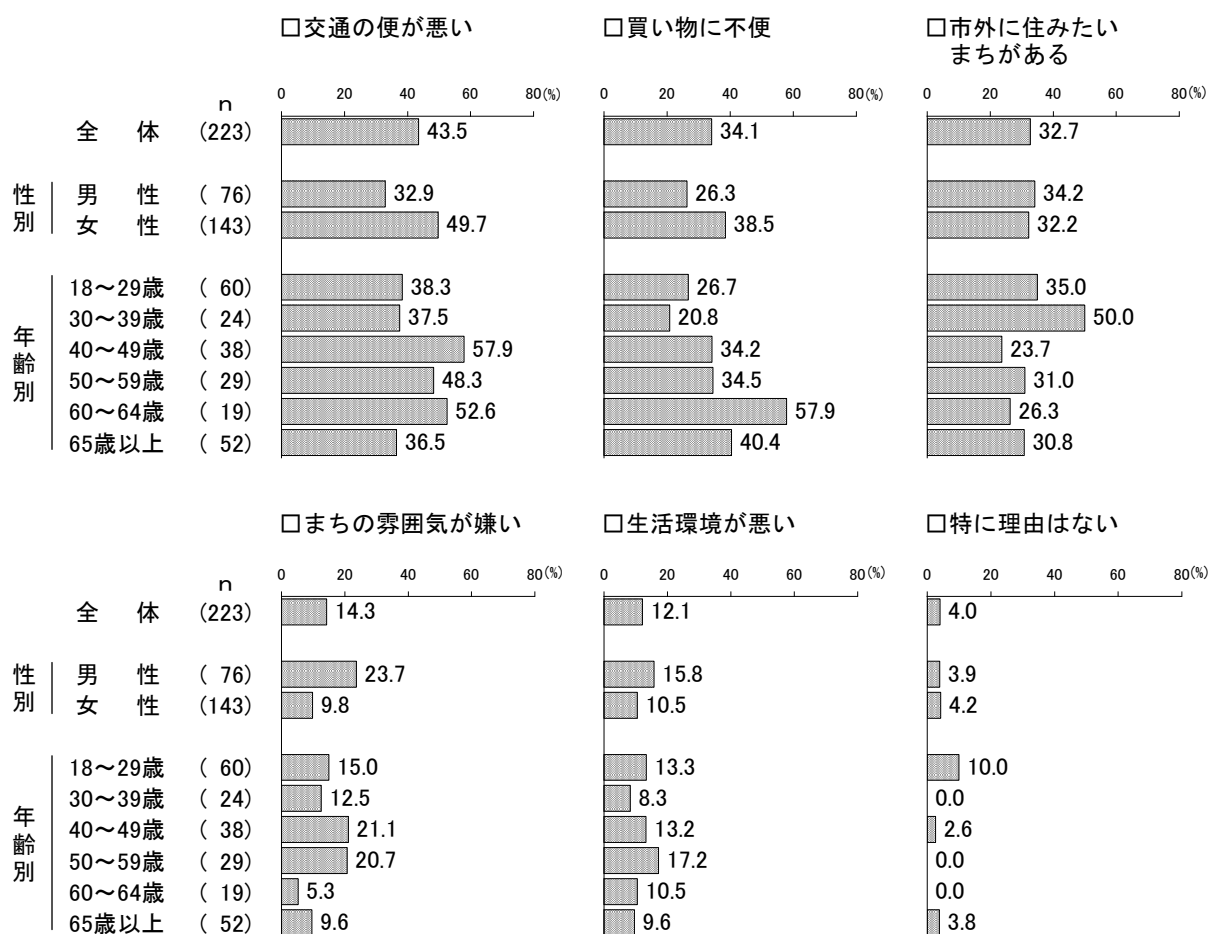


八王子市から「市外へ移りたい」と回答した223人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が悪い」(43.5%)が4割強で最も多くなっている。次いで「買い物に不便」(34.1%)、「市外に住みたいまちがある」(32.7%)、「まちの雰囲気が嫌い」(14.3%)、「生活環境が悪い」(12.1%)などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、「買い物に不便」は令和元年(2019年)(27.1%)より7.0ポイント増加している。一方、「交通の便が悪い」は令和元年(2019年)(47.8%)より4.3ポイント、「生活環境が悪い」は令和元年(2019年)(15.9%)より3.8ポイント、それぞれ減少している。

(図1-8-1)

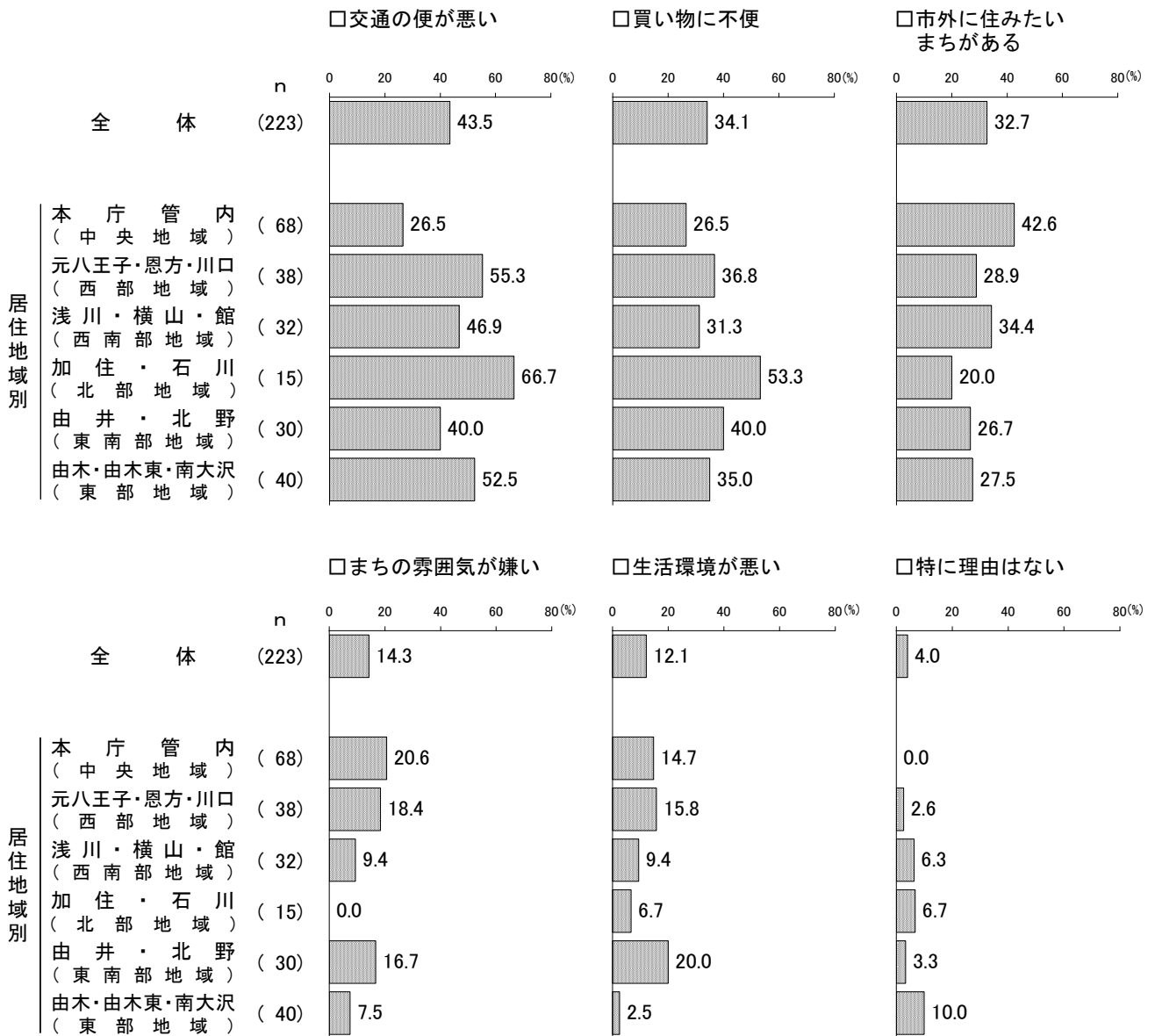
図1-8-2 市外へ移りたい理由—性別、年齢別（上位5位+「特に理由はない」）



性別にみると、「交通の便が悪い」は女性（49.7%）が男性（32.9%）より16.8ポイント、「買い物に不便」は女性（38.5%）が男性（26.3%）より12.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「まちの雰囲気が嫌い」は男性（23.7%）が女性（9.8%）より13.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」は40~49歳（57.9%）で6割近くと多くなっている。「買い物に不便」は65歳以上（40.4%）で約4割と多くなっている。（図1-8-2）

図1-8-3 市外へ移りたい理由—居住地域別（上位5位+「特に理由はない」）



居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（55.3%）で5割台半ばと多くなっている。「買い物に不便」は由井・北野（東南部地域）（40.0%）で4割と多くなっている。「市外に住みたいまちがある」は本庁管内（中央地域）（42.6%）で4割強と多くなっている。（図1-8-3）

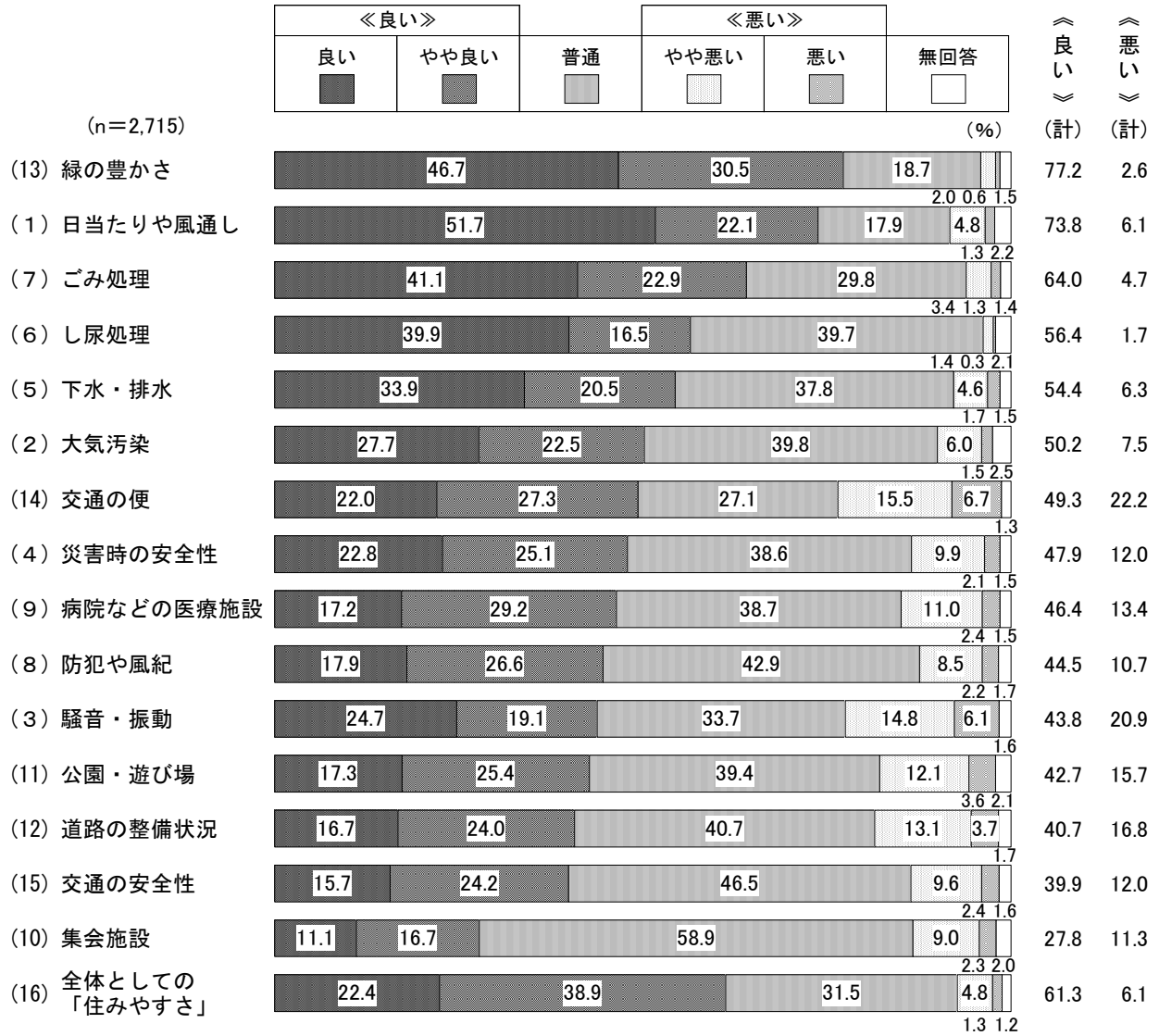
(9) 生活環境の評価

◇《良い》は、「緑の豊かさ」が8割近く、「日当たりや風通し」が7割強

問7 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つつ)

図1-9-1 生活環境の評価—全体



(注) (16) 全体としての「住みやすさ」を除き、「良い」と「やや良い」を合算し、比率の高い順に並べた。

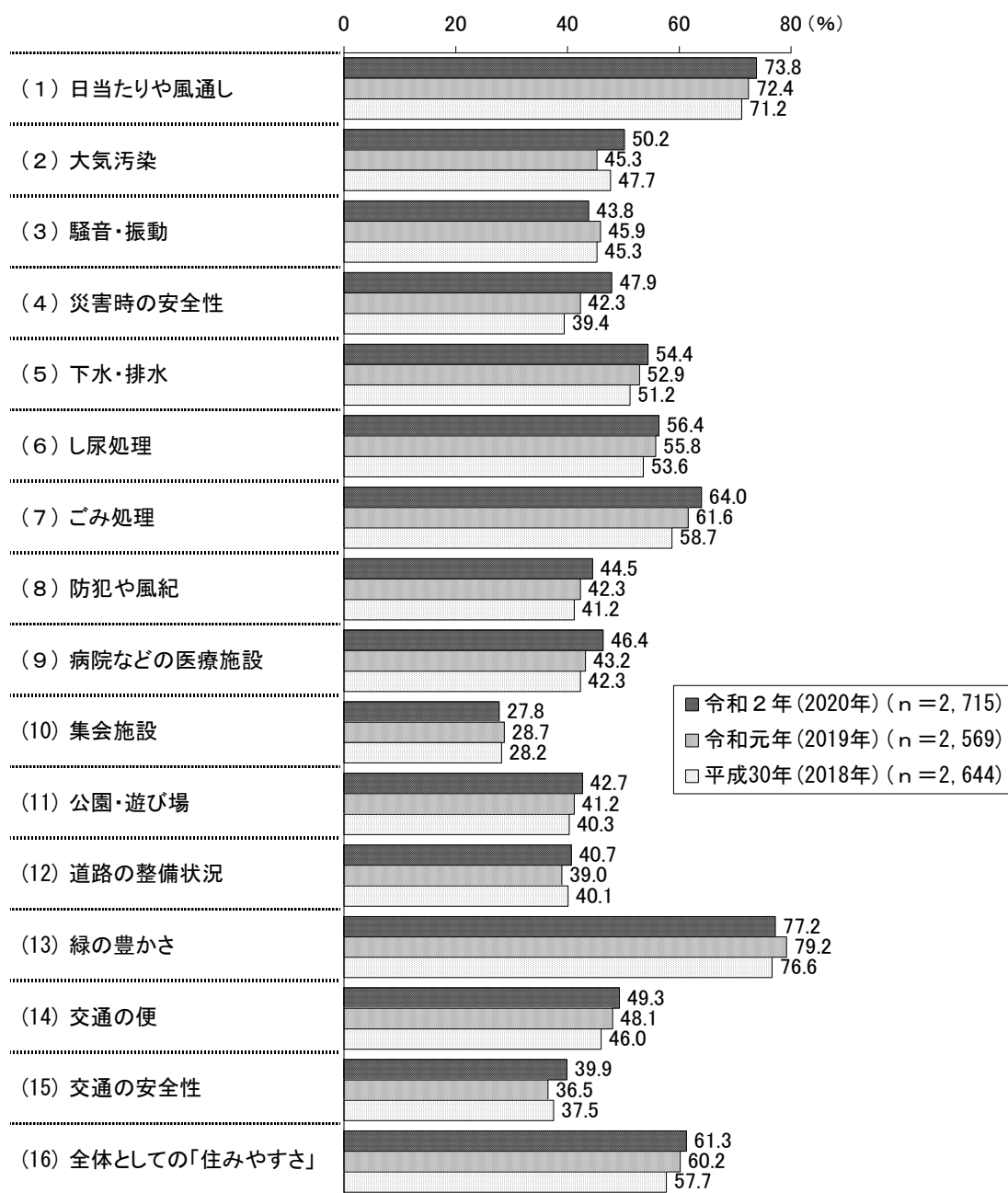
周囲の生活環境について日頃どのように感じているか聞いたところ、「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》は、(13) 緑の豊かさ (77.2%) が8割近くで最も多くなっている。次いで(1) 日当たりや風通し (73.8%)、(7) ごみ処理 (64.0%) などの順で上位となっている。

一方、「やや悪い」と「悪い」を合わせた《悪い》は、(14) 交通の便 (22.2%) が2割強で最も多く、次いで(3) 騒音・振動 (20.9%) などの順となっている。

また、(16) 全体としての「住みやすさ」は、《良い》 (61.3%) が6割強となっている。

(図1-9-1)

図 1-9-2 生活環境の評価—経年比較（「良い」＋「やや良い」）



「良い」と「やや良い」を合わせた《良い》について前回までの調査と比較すると、令和元年(2019年)より、(4) 災害時の安全性で5.6ポイント、(2) 大気汚染で4.9ポイント、(9) 病院などの医療施設で3.2ポイント、それぞれ増加している。

一方、(3) 騒音・振動で2.1ポイント、(13) 緑の豊かさで2.0ポイント、それぞれ減少している。

(図 1-9-2)

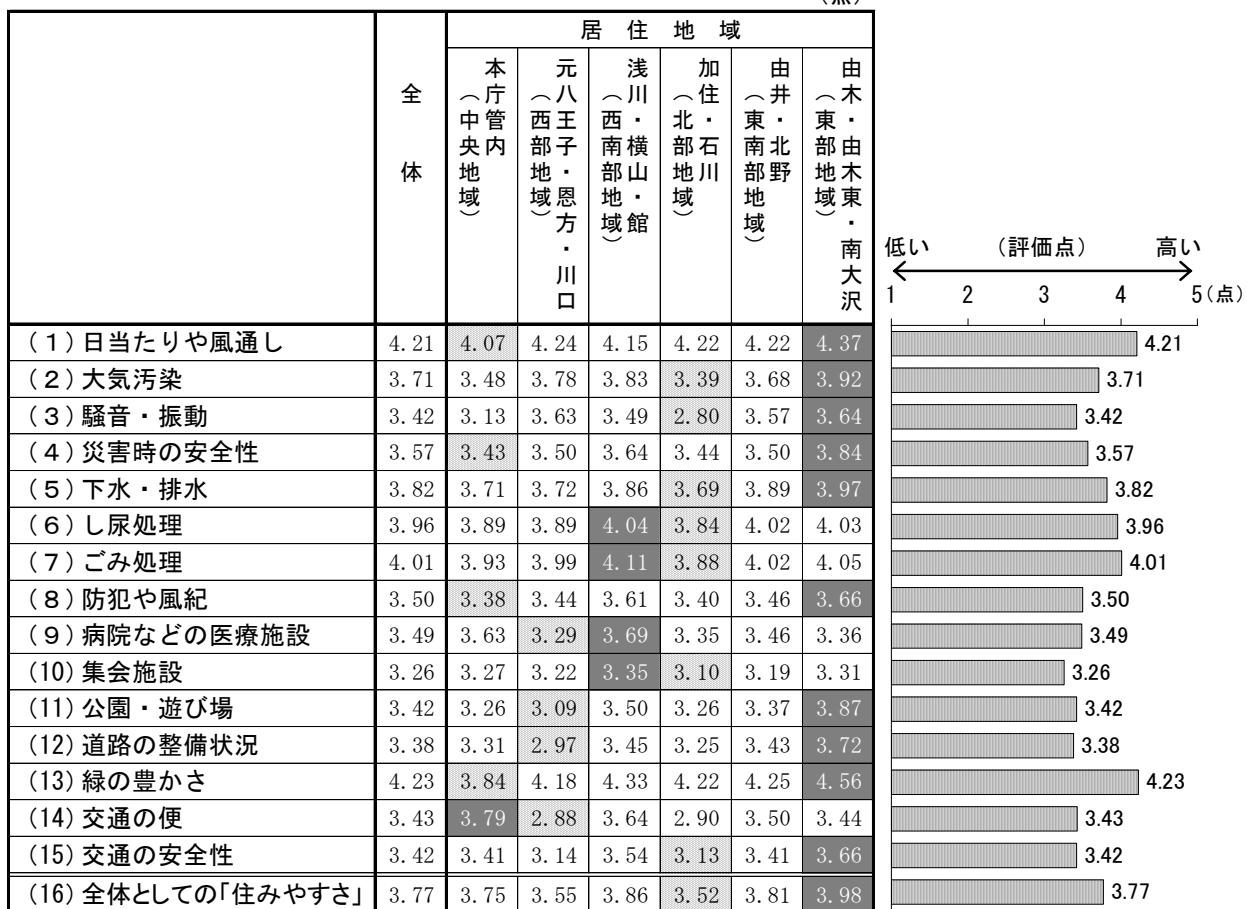
加重平均値（満足度）

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比率をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \left[\left(\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} \right) + \left(\text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} \right) + \left(\text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} \right) + \left(\text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} \right) + \left(\text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点} \right) \right] \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点から1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど評価は高くなり、1.00点に近くなるほど評価が低くなる。

図1-9-3 生活環境の評価—加重平均
(点)



(注) は項目内での最高値 は項目内での最低値

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの5項目は次のようになっている。

【上位】

緑の豊かさ (4.23点)
日当たりや風通し (4.21点)
ごみ処理 (4.01点)
し尿処理 (3.96点)
下水・排水 (3.82点)

【下位】

集会施設 (3.26点)
道路の整備状況 (3.38点)
騒音・振動 (3.42点)
公園・遊び場 (3.42点)
交通の安全性 (3.42点)

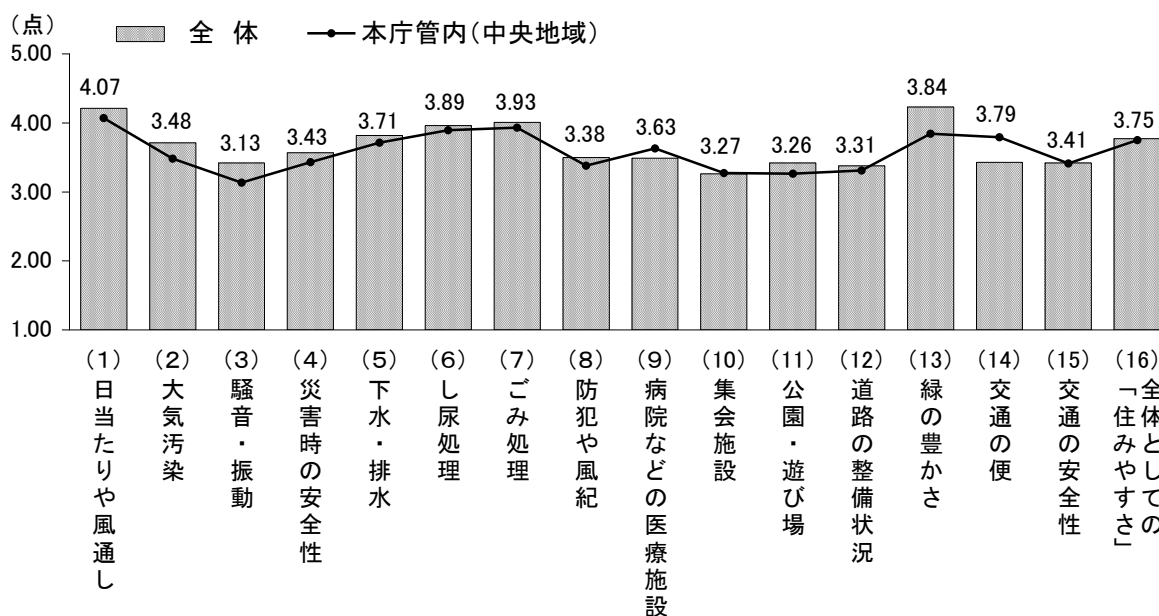
(図1-9-3)

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地域ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.36ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは（13）緑の豊かさ（-0.39ポイント）となっている。（図1-9-4）

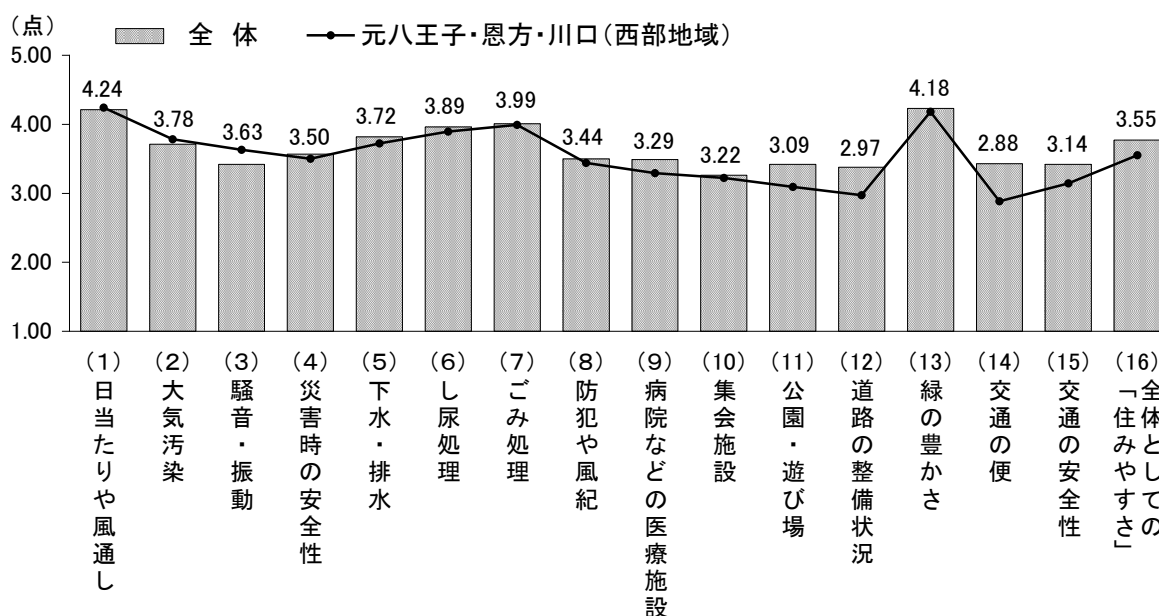
図1-9-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「本庁管内（中央地域）」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは（3）騒音・振動（+0.21ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中13項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（-0.55ポイント）となっている。（図1-9-5）

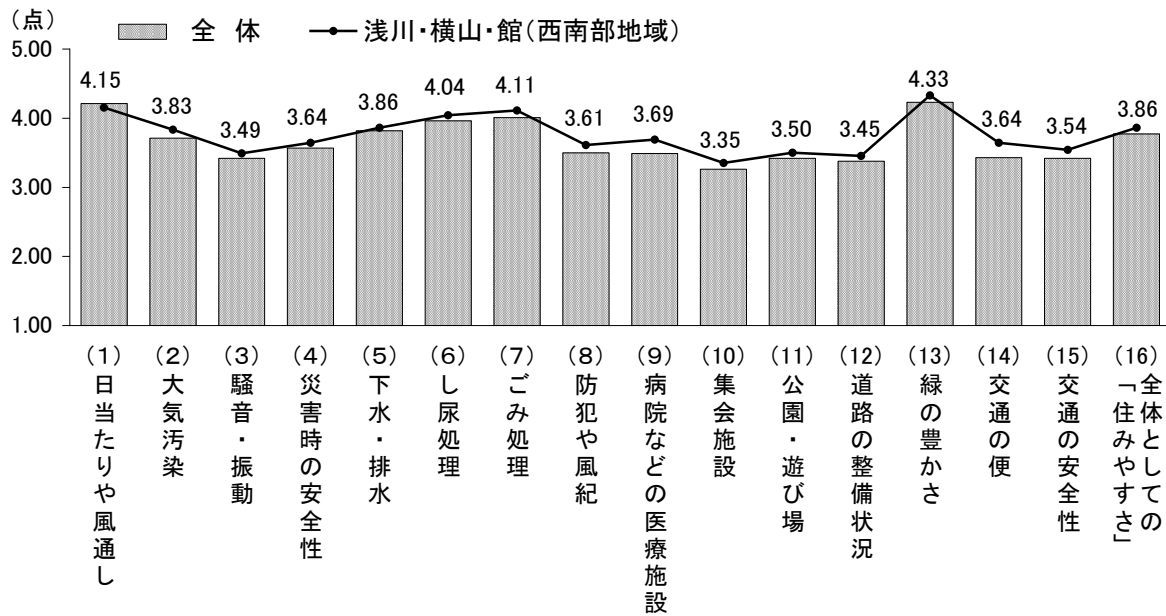
図1-9-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「元八王子・恩方・川口（西部地域）」



【浅川・横山・館（西南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（14）交通の便（+0.21ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中1項目で、（1）日当たりや風通し（-0.06ポイント）となっている。（図1-9-6）

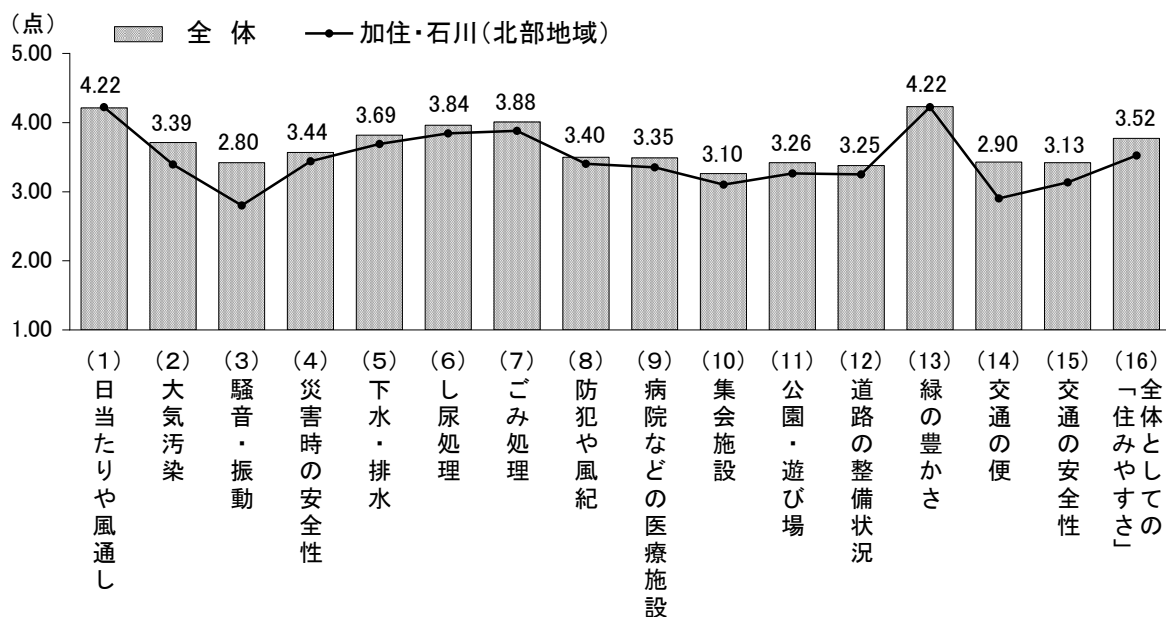
図1-9-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館（西南部地域）」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中1項目で、（1）日当たりや風通し（+0.01ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（3）騒音・振動（-0.62ポイント）となっている。（図1-9-7）

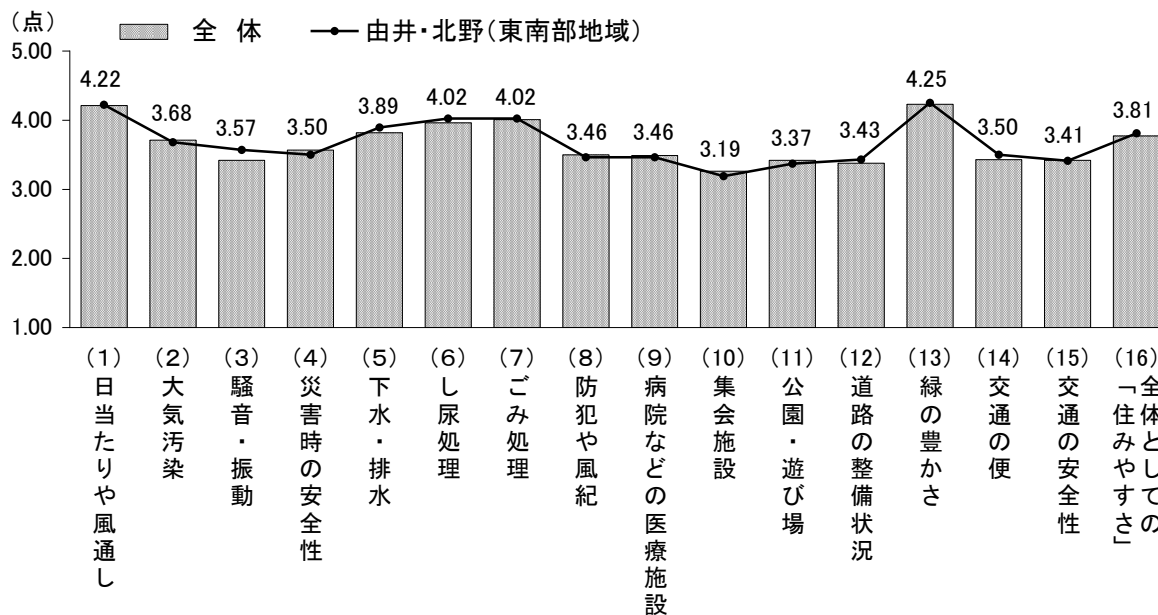
図1-9-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川（北部地域）」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中9項目で、最も差が大きいのは（3）騒音・振動（+0.15ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中7項目で、最も差が大きいのは（4）災害時の安全性と（10）集会施設（ともに-0.07ポイント）となっている。（図1-9-8）

図1-9-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由井・北野（東南部地域）」



【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

市全体より上回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは（11）公園・遊び場（+0.45ポイント）となっている。一方、下回っているのは16項目中1項目で、（9）病院などの医療施設（-0.13ポイント）となっている。（図1-9-9）

図1-9-9 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」

